

山口県における腎不全対策について

前田日出三

各透析施設間相互の交流を通じ、医療の質の向上を計ることを目的として、昭和60年2月17日、山口大学医学部泌尿器科教室の酒徳治三郎教授の提唱により、山口県透析研究会と腎不全対策協議会が発足し、以後、毎年2回催されている。

透析研究会は、午前中、各施設よりの研究発表会を、腎不全対策協議会は、午後、一閃で活躍中の学者を招聘し、教育講演会を開催する。また、昼食時に、必要に応じて、透析医会が開かれる。因に、第1回目のプログラムを紹介すると、透析研究会プログラム：1.慢性腎不全患者の透析導入時期の検討と導入前の管理について 2.チェックリストの活用 3.止血方法の工夫（ソ径部にブラッドアクセスを造設した患者に対して） 4.病室におけるポンプレス HF 及び HD の臨床経験 5.腎性骨異常栄養症に関する 2, 3 の考察 6.慢性血液透析患者の異所性石灰沈着の重症例について 7.糖尿病性腎症患者の透析室における看護の再検討 8.高齢透析患者の看護（経過報告） 9.兄弟間に於ける死体腎移植患者に対する援助—手術までの経過を通して、患者へのかかわり方を学ぶ— 10.透析患者の社会復帰の現況、以上の10題であった。午後、京都大学人工透析部副部長、澤西謙次先生の「透析療法の将来像と腎移植」の講演が行われた。

回を重ねるにしたがい、発表施設と演題の固定化が起こり、ややマンネリ化が気になりだし

たので、日常普通に経験する極く卑近な問題をその回のテーマとして演題を募集するようになってから、非常に活況を呈するようになった。平成2年3月11日に行われる第11回の山口県透析研究会のテーマ演題は「透析中の低血圧管理」である。この他に一般演題も募集される。腎不全対策協議会は東京大学第一内科黒川清教授の「Vitamin Dによる Renalosteodystrophy の治療」の特別講演が予定されている。更に忘れられない出来事として、日本透析医会よりの補助金のおかげで、平成元年3月5日第9回研究会で、透析医会が、「山口県内透析施設での消毒及び感染予防」についてアンケートを行いその結果の報告とあわせて川崎医科大学腎臓内科平野宏助教授の「透析患者の感染症の臨床的検討」の特別講演を開催することが出来たことである。

また下関地区でも、透析施設間の親睦と医療の質の向上を目的とした下関透析施設交流会が、済生会下関病院腎センター大藪靖彦医師を会長として、平成元年1月31日発足し、第1回のスポーツ大会と学術講演会を開催し県での研修と併せて、更に医療に関する識見の向上につとめるよう心がけている。平成元年度の学術講演は発会記念のため、5月13日、北里大学泌尿器科酒井糾教授の「腎疾患 Caressystem」「腎不全管理における CAPD の位置づけ」同熊野和雄講師の「長期透析患者の骨合併症について」が演題であった。